



◆ アイ文化のことをもっとも話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソノコ(=お便り)形式のエッセイです。



今月のテーマ

スス(ヤナギ)

本田優子(札幌大学教授)



ヤ

ナギはアイヌ語ではススと言い、カムイノミ
(神への祈り)をおこなう時、男性はヤナギを

伐つてイナウ(※)を作ります。ミスキヤキハダの木など
も使われるけど、一番ポピュラーなのはやっぱりヤナギ
ですね。外皮を剥いてから刃物で紙のように薄く削
り、カールした房をたくさんつけたイナウ。房を束ねて
捻ったキケチノイエイナウ、削つ

たままでふわふわになっている
キケバラセイナウ、逆さ削りの
チエホロカケライナウなど、いく
つかの種類がありますが、どれ
も本当にきれい。カムイ(神)た
ちは人間が作った汚れないイ
ナウを受け取ることをこの上な
い喜びとしているんです。カ
ムイに捧げるイナウはヌササン
(祭壇)に立てられますが、なん
たって生命力が強い木なので、
そのままそこに根を張りヤナギ
として成長している姿も時々みられます。

同じくヤナギを材料とする大切な道具に、イサパキ
クニがあります。イ(それ)・サパ(の頭)・キク(を叩く)・
ニ(木)。サケを捕ってからすくを叩くための、長
さ約三十センチ、太さ三センチくらいの棒のことで
す。以前、アイヌの伝統的鮭漁の映像を見た学生が



イラスト/山丸ケニ

「頭を叩いて殺すなんて残酷だ」という感想を書いて
きました。でも、息ができず口をバクバクしてい
ると一撃で昇天するのどっちが楽かしらっそれに、
頭を叩かれたサケの方が余計な血が回っていなくて美
味しいのです。なによりも大切なことは、イサパキクニ
は、そのあたりに転がっているような棒ではなく、片方

の皮をきれいに剥ぎ、そこに簡
単な削りかけを付けたりする
ので、サケにイナウを持たせ
てあげることになるのです。今
年、没後百年を迎える知里幸恵
さんの『アイヌ神謡集』(一九二
三)の中にも、人間たちがサケ
の頭を腐れ木で叩くことに怒っ
た魚の神がサケを人間世界に
出さなくなり、反省した人間た
ちが魚をとる道具を幣(ぬさ)の様
に美しく作ったので、サケたちは
美しい御幣(ごひ)をくわえ魚の神の
元に行くようになり、飢饉(きん)から救われたという物語が
あります。

その他、飢饉の時に天上界の川に落とされたヤナギ
の葉がシヤマモとなって、人間を飢えから救ったという
伝説もあり、ヤナギはアイヌ文化では本当に大切な樹
木なのです。

(※)イナウ…カムイに祈る際の重要な祭具。カムイたちに最も喜ばれる供物とされる。



次回のテーマは「イソカピウ(アホドリ)」
村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)
が担当します。



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トウレツボン」

- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。

